

平成24年度（2012年度）日本留学試験

# 日本語

## （125分）

### I 試験全体に関する注意

1. 係員の許可なしに、部屋の外に出ることはできません。
2. この問題冊子を持ち帰ることはできません。

### II 問題冊子に関する注意

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見ないでください。
2. 試験開始の合図があったら、下の欄に、受験番号と名前を、受験票と同じように記入してください。
3. 問題は、記述・読解・聴読解・聴解の四つの部分に分かれています。それぞれの問題は、以下のページにあります。

	ページ
記述	1～3
読解	5～29
聴読解	31～45
聴解	47～50

4. 各部分の解答は、指示にしたがって始めてください。指示されていない部分を開いてはいけません。
5. 足りないページがあったら手をあげて知らせてください。
6. 問題冊子には、メモなどを書いてもいいです。

### III 解答用紙に関する注意

1. 解答は、解答用紙に鉛筆（HB）で記入してください。
2. 記述の解答は、記述用の解答用紙に日本語で書いてください。  
読解・聴読解・聴解の問題には、その解答を記入する行の番号 **1**、**2**、**3**、…がついています。解答用紙（マークシート）の対応する解答欄にマークしてください。
3. 解答用紙に書いてある注意事項も必ず読んでください。

※ 試験開始の合図があったら、必ず受験番号と名前を記入してください。

受験番号			*				*							
名前														

# 記述問題

## 説明

記述問題は、二つのテーマのうち、どちらか一つを選んで、記述の解答用紙に書いてください（解答用紙には、テーマの番号を書く必要はありません）。

文章は横書きで書いてください。

解答用紙の裏（何も印刷されていない面）には、何も書かないでください。

## 記述問題

以下の二つのテーマのうち、どちらか一つを選んで 400字から500字で書いてください  
(句読点を含む)。

- ① 近年、日本では、生活習慣が変化したり、伝統行事が失われたりしています。

あなたの知っている国や地域における生活習慣や伝統行事の変化について、説明してください。

そして、その変化についてどう思うか、あなたの考えを書いてください。

- ② 現在、日本では、若者が大学や専門学校などを卒業した後、就職することが難しい場合があります。

あなたの知っている国や地域における若者の就職状況について、説明してください。

そして、その状況についてどう思うか、あなたの考えを書いてください。

——— このページには問題はありません。 ———

# 読解問題

## 説明

読解問題は、問題冊子に書かれていることを読んで答えてください。

選択肢1, 2, 3, 4の中から答えを一つだけ選び、読解の解答欄にマークしてください。

- I 次の文章は、学生証の扱いに関する規程です。学生証をなくして再交付の申請をする場合、どうすることになりますか。

1

### 学生証について

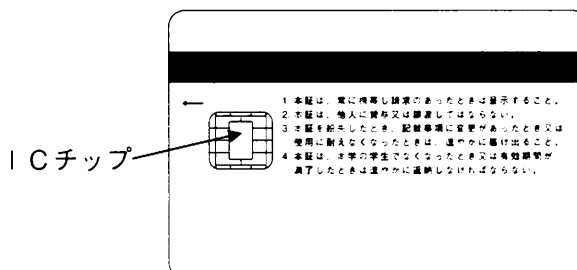
学生証は附属図書館（中央図書館等）や学術情報メディアセンターでも利用でき、図書館への入退館や証明書自動発行機も利用できます。

#### ●紛失、盗難、破損等したとき

紛失、盗難、破損等の場合は、再交付手数料がかかります。証明書自動発行機で申請用紙を購入し（2000円）、必要事項を記入の上、学生課に再交付の申請をしてください。交付は翌日になります。

#### ●ICチップ不良のとき

正常な利用における不具合発生時は、無料で再交付します。



#### ●記載事項に誤りがあったとき

所属学部・研究科等の教務担当係へ、再交付を申請してください。記載事項の誤りの原因が大学側にある場合は、無償で再交付します。

1. 学生課で申請用紙をもらい、手数料とあわせて提出する。
2. 学生課で手数料を支払い、証明書自動発行機で手続きをする。
3. 証明書自動発行機で申請用紙を買い、学生課に提出する。
4. 所属する学部・研究科で申請用紙をもらい、手続きをする。

II 次の文章で、筆者は、どのような地図が一番わかりやすいと述べていますか。

2

自分で地図帳を手にしたときには、地図を地面と水平にして、車の進行方向と地図の向きを簡単に合わせることができます。しかし、街の中にある地図は、壁に貼りつけてあるため、普通は地面に対して垂直になっています。地図が地面に対して垂直に立って表示されている場合は、ヘディングアップ（自分の進行方向が上になるように表示する）になっているとわかりやすくなると言われています。

というのは、地図の上と自分の向かう方向が一致していれば、地図の右は、現実でも右に、地図の左は、現実でも左になるからです。そのため、地図を見ながら目的地に行く場合、自分が右に行くのか左に行くのかという判断がしやすいのです。これを\*ヒューマン・インタフェースの分野では、「反応の互換性がよい」と言います。

たとえば、家から駅までの道筋を一枚の紙に示すとき、自分が立っている場所を下の方に、そして最初に進む道（今自分が立っている道）を上に向けて描く人は多いのではないのでしょうか。ヘディングアップは私たちにとっては自然な地図の見方なのです。

（新垣紀子他『方向オンチの科学』講談社）

\*ヒューマン・インタフェース：機械や情報など、人間の周囲の環境を人間が扱いやすいものにしようとする考え方やその技術

1. 目的地が真ん中に描いてある地図
2. 壁に貼ってある地図
3. 北の方角が上になっている地図
4. 進む方向が上になっている地図

III 次の文章で述べられている「ひとりで美術展に行く楽しみ」として、最も適当なものはいずれですか。

3

知人に、美術展に出かけるのが好きな女性がいる。友人といっしょに行くこともあるが、ときどき、ひとりで行くのも好きなのだそうだ。

友人といっしょに行くと、あとで感想を話し合ったりするのは楽しい。けれども、見る速度が違ったりして気を使うこともある。自分はもう少しゆっくり見たいと思っても、友人がさっさと行ってしまうと、あまりのんびりしているわけにもいかない。

そこで、ひとりで出かけるようになって、また別の楽しみを見つけたという。それは、美術展で、知らない人と言葉を交わす楽しみだ。例えば、気に入った絵を見ていると、同じように、ずっとそこに立っている人がある。

「きっと、この人もこの絵が好きなんだな」と共感し、ちょっと言葉をかけてみる。「ステキですね、この絵」というと、向こうもうれしそうに言葉を返してくれる。

そんなふうには、たまたまそこで出会った人と、その時間だけ同じ気持ちを共有して言葉をかわせることがうれしいのだという。

(斎藤茂太『気持ちの整理 不思議なくらい前向きになる94のヒント』三笠書房)

1. あとで友達に感想を教えてあげられること
2. 自分の都合のよい日に見に行けること
3. 同じ気持ちを持った人と出会うことがあること
- 4.気に入った絵を必ず見つけられること



IV この文章で、筆者は、読書をする前はどのような問題があったと述べていますか。

4

わたしが読書をして今まで一番良かったと思うのは、教養がついたということ以上に、自分が考えているもやもやした気持ちの状態とそれを説明する言葉との間のズレが非常に少なくなったことです。そうすると、思い通りに体を動かせるスポーツ選手のように爽快そうかい感かんがある。これがもし言葉が不自由であり使いこなせなければ、常に自分がなんとなく感じている感覚と発している言葉の間のズレが気になって、それがストレスになると思います。かゆいところをかく耳かきのような道具みたいに言葉が使えるようになるには、やはり読書を通じて書き言葉を習得していくことが非常に大きいと思うんです。

(土居健郎他『「甘え」と日本人』角川書店)

1. 難しい言葉で書かれたものが読めなかった。
2. 自分の気持ちと言葉のズレに気がつかなかった。
3. 他人の気持ちが理解できなかった。
4. 自分が言いたいことを的確な言葉で表せなかった。

V 次の文章で、筆者は、どのような家がいいと述べていますか。

5

昔ながらの子どもたちの遊びというのは、頭（理屈）よりも身体（五感）を駆使して楽しむものばかりでした。そんな感覚を鈍らせないような、ただそこで生活しているだけで楽しいような家をつくることは、理屈の世界にどっぷりつかって仕事をしている大人たちにもとても大切なことだと思われまます。

たとえば、廊下から台所、茶の間、応接間というように、完全に区切られた空間では、なんとなく目的がハッキリしすぎていて面白くありません。リビング・ダイニングの横への大きな空間、また吹き抜けのある縦への空間が開けていることは、家族の動きが見えたり隠れたりしていて、それだけで面白いのです。

いつもずーっと一緒ではイヤだけど、まったく見えなくなると寂しいという、家族というのは不思議な存在です。家族バラバラなことをしていても、広くてあいまいな空間のなかで、なんとなく一緒に過ごしている感じがあると心は安らぎます。子どもなら守られている安心感があるでしょうし、家族のよさというものを肌で感じられるようになります。

リビング、ダイニング、キッチン、階段、子ども部屋といった、目的別の空間があいまいに連続していることは、人が動くときにある種の「楽しさ」をもたらしてくれます。

（松本祐『「頭のよい子が育つ家」のつくり方』現代書林）

1. 目的の違う部屋同士が完全に仕切られていない家
2. 各自に個室がありプライバシーの保てる家
3. 目的ごとに部屋がはっきり区切られている家
4. 家族が集まることができる大きな部屋がある家

VI 次の文章で、\*ソーンダイクの実験は本来どのように行うべきだったと述べていますか。

6

ソーンダイクの問題箱では、空腹なネコが箱の中に入れられる。箱の中には天井から先に輪のついたひもが吊<sup>つる</sup>されていて、ネコがこの輪に爪をかけてひっぱると、ドアの鍵が開いてネコは外に出られるのである。ネコにはひもは見えていても、その先は、天井の穴を通して箱の外に出ており、ドアを開ける仕掛けがどうなっているかは、箱の中にいるネコに見えることはない。だから、このひもを引けばその力が伝わってドアの鍵を開けることになるというような手段と目的の関係は、かりにネコにそのような関係を把握する能力があるとしても、こういう状況ではネコに把握できるはずがない。

ソーンダイクの実験目的は、その著書の題名が示す通り「動物の知能」を明らかにすることにあり、…(略)… 場面を見抜いて行動するかどうかを調べる知恵試験のはずであったのに、その問題箱は、ある機械仕掛けの末端だけがのぞいているだけであるから、ネコに「問題」を与えたことにはなっていないのである。もし動物に知恵試験をするために問題を与えるとすれば、その問題を解決するための場面の仕組がかくすところなく被験者に開放されていなければならない。

(岡野恒也『チンパンジーの知能』ブレーン出版)

\*ソーンダイク：アメリカの心理学者

1. ネコの様子が箱の外から見えるようにして行うこと
2. ネコに箱が開く仕組みが見えるようにして行うこと
3. ネコが簡単に外に出られる仕組みで行うこと
4. ネコに仕掛けがまったく見えないようにして行うこと

VII 次の文章は、水泳選手に対する指導について書かれたものです。この文章で、筆者が大切だと考えていることは何ですか。

7

選手のための目標を設定し、このテクニックを身につけさせるために、こんな練習をしていこうとプログラムを組む。それが予定どおりにすべて順調に行ったとき、人は反省や分析をおろそかにしてしまいがちなのだ。

だが、良かった原因や効果が上がった理由を、きちんと整理してまとめておかないと、つぎに活か<sup>い</sup>せ<sup>ない</sup>のだ。選手の泳ぎはいつも順調に行くわけではない。必ず崩れるときがある。そのときに、

「なぜ、あのときにできたのか」

それがわかっていないと、調子を元に戻せなくなってしまう。

(平井伯昌『見抜く力』幻冬舎)

1. ミスや失敗をしたときの理由を分析すること
2. 悪い結果はなるべく忘れるようにすること
3. 目標を設定し、達成のためのプログラムを組むこと
4. いい結果が出たときの理由を分析すること

VIII 次の文章の下線部「夢は自由にならない」の意味として最も適当なものはどれですか。

8

夢というやつは本当に不思議なものだ。

知らない町や知らない人間が、ごく当たり前のよう<sup>な</sup>に登場するばかりか、夢を見ているほくの方も、ずうっと前からそれに馴れ親しんでいたかのごとく自然に入り込んで行く。

一昨日<sup>おととい</sup>など、互いに「ちゃん」付けで名前を呼び合っている親友と激しい口論の末に取っ組み合いの喧嘩<sup>けんか</sup>となって、ごろごろと草の斜面を転がり落ち、体中血だらけになった夢を見たのに、目覚めてよく考えてみたら、それがだれなのか分からなかった。夢の中の顔と名前は鮮明に思い出すことができた。けれど、ほくの周りにその顔と名前のあいつは存在しない。しばらくは頭がぼうっと<sup>な</sup>った。ほくは夢の中で確かにタケちゃんと呼び、あいつの美人の姉さんのことや、郵便局に勤めている親父<sup>おやじ</sup>さんのことまで知っていたというのに、ほくの世界にあいつは絶対に存在していない。なんだか悲しかった。すごく気の合う相手だったんだ。もう一度眠ってあいつに会いたいと切実に思った。けれども……夢は自由にならない。

(高橋克彦「懐かしい夢」赤川次郎他『二十四粒の宝石 超短編小説傑作集』講談社)

1. 知らない町や人間が夢の中に勝手に出てくる。
2. 自分が見たいと思わない怖い夢を見ることがある。
3. 夢の続きを見たいと思っても見ることができない。
4. 一昨日<sup>おととい</sup>見た夢の中の自分には自由がなかった。

IX 次の文章の下線部「都市共同体の重要な仕事」の例として、最も適当なものはどれですか。

9

賑わいも都市景観に求められる大事な姿だ。どんなに見掛け上の姿が美しくても、そこに人々が生き生きとしていなければ、本当に美しい景観とはいえない。

都市に住む人々には、家庭のなかのホームライフと、仕事上のビジネスライフがあるが、その中間に、この二つに属さないストリートライフというべきものを楽しめることが大事だ。都市は全く異なる人々が自由に集まり、交歓しあうシステムなのだ。ストリートは見知らぬ人々が行き逢い、新たな発見や出会いがあり、何らかの連帯意識を感じさせるべき場であり、また、一人でもそれなりに楽しめる場も用意してくれる。こうしたストリートは最も都市らしい空間である。その場を整えるのは、都市共同体の重要な仕事である。

(田村明『まちづくりと景観』岩波書店)

1. 高速道路や大きな橋を整備すること
2. 建物以外に人々が自由にふれあえる場をつくること
3. ビジネスのための立派な設備の建物を用意すること
4. 家庭生活を充実させるための快い住宅を建てること

X 次の文章に続く A～D の最も適切な順番はどれですか。

10

高地のような空気が薄い場所（低酸素環境）では、体内に酸素を取り込みにくくなる。人間にはもともと周りの環境に慣れようとする適応能力が備わっているため、そのような場所に長時間いると身体は様々な反応を起こし、必要な酸素量を効率よく取り入れようとする。

- A この人工的な環境を用いたトレーニングが、いわゆる“低酸素トレーニング”と呼ばれている。
- B この高地への適応能力を巧みに利用し、運動能力の向上を引き出そうとするのが、“高地トレーニング”である。
- C 低酸素トレーニングによって期待される効果は、競技種目やトレーニングの目的によって様々である。
- D また、近年では、高地と同じような低酸素環境を人工的に作り出す（気圧はそのまま空気中の酸素濃度だけを薄くする）ことが可能となり、平地にいても高地と同じような効果が期待できるようになった。

最も一般的なのは、マラソン選手などが持久力のアップを目的として行う場合であろう。

（伊藤穰「JISSにおける低酸素トレーニングの実際と更なる可能性」

【月刊 国立競技場】540号 独立行政法人日本スポーツ振興センター）

- 1. A - C - D - B
- 2. B - D - A - C
- 3. C - B - D - A
- 4. D - A - C - B

XI 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

学ぶという、なにか学問的なことでないといけないと思うかもしれませんが、情報を得て、さらにそれを自分で調べたり考えたりすることによって自分のものにする活動は、すべて学びの一種、僕の言葉でいうと知的消費のひとつだと思います。

たとえば、新聞を読んだり、ニュースを聞いたりするのも、それだけでおわらず、いったいこの原因はなんだろう、なぜこの問題がそんなに大きく報道されているのだろうと疑問をもち、自分で筋道をつくりあげていけば、それは立派な学びです。

ただニュースを聞いて、へえと聞き流しているような状態は、物質的な消費に<sup>たと</sup>喩えるなら、( A ) のようなものです。服や靴を買ってもそれを身につけなかったら意味がないのおなじように、知識は自分のものにするこゝではじめて意義が生まれ、楽しさも味わえ、記憶に残っていきます。そして、新しいニュースを聞いたときには、似たようなニュースを思い出して、くらべながら、自分なりの理論を発展させることができるようになります。

学びのための材料、消費すべき知的な材料は、まわりにたくさん転がっています。そのなかから宝を拾うのか、無視してその上を歩いてしまうのか、それはあなた次第です。

(ピーター・フランクル『ピーター流生き方のすすめ』岩波書店)

問1 ( A ) に入るものとして最も適当なものはどれですか。

11

1. よく検討しないで車を買ってしまう
2. 車を買ったのに車庫に入れたまま乗らない
3. 車のカタログを見ているだけで決して買わない
4. 買った車を毎日乗り回す

問2 この文章の内容と合っているものはどれですか。

12

1. 広く情報を集めたほうがいい。
2. 客観的な情報を得るようにしたほうがいい。
3. 得た情報を自分で整理し直すことが大切だ。
4. 情報を集めて、それを広く人々に伝えなければならない。



XII 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

昔は、「書く人」というのは、その前段階においては、必ずや「読む人」であった。本を読んで、他人の言葉を我がことのように感じるという「同化」の過程がまず存在したのである。

ついで、どうも自分の感じていることは他人と違うのではないかと思い定めた人が現れ、その未だ表現されていない何かを表出するために机に向かった。こうした場合、表出の前提として自他の「比較」がまずあった。自分と他人を比べて類似と差異を見極め、その谷間に自己の独自性を発見するという回路がごく一般的であった。

ところが日本が豊かになり、物質的な条件が満たされるようになった頃ころからこの種の前提は崩れてしまった。「書く人」は「読む人」の段階を経ないでいきなり「書く人」になろうとするのである。

では、なぜいきなり「書く人」になりたがるのかといえば、それは生まれたときから、自分は他人と違っていると思こんでいるからである。なにゆえに、こうした天上天下唯我独尊タイプの人が増加したのだろうか？ それは家族制度が大家族から核家族に移ると同時に地域コミュニティーが崩壊し、自我は百パーセント自分の取り分と理解する人ばかりになったからだ。

このタイプの人には自他の比較がない。自分は初めからユニークだと思っているから比較なんてする必要がないし、本を読んで自己同一化を図るなんてこともない。本なんて読まなくても、オレ（わたし）はユニークなんだから、感じることを考えることをそのまま書けばいいということになる。

（鹿島茂「いきなり『書く人』」【図書】第704号 岩波書店）

問1 筆者は、昔と最近とを比べて、「書く人」についてどう述べていますか。

13

1. 昔の人も最近の人も、自分と他人との違いを発見したうえで書く。
2. 昔の人も最近の人も、感じることや考えることをそのまま書く。
3. 昔の人と最近の人の書き方を単純に比較することはできない。
4. 昔の人には同化や比較の段階があったが、最近の人にはこの段階がない。

問2 筆者は、下線部「このタイプの人」が「自分がユニークだ」と思うのはなぜだと述べていますか。

14

1. 自分を他人と比較した結果、違うところがあったから
2. 家族や社会構造の変化によって、自分しか見なくなったから
3. 他人が書いた本を読んでも、その内容に共感できないから
4. ユニークであることが大切だと教育されてきたから

XIII 次の文章はオサガメという亀の生態についての解説です。読んで、後の問いに答えなさい。

深海への潜水が生物にもたらす、もう一つの深刻な問題は急激な温度変化である。熱帯付近でも海水が温かいのは水深数十メートルまでで、あとは急激に下がって水深500～600メートルの海水温は摂氏4度ほどになるが、これより深くなっても温度はほぼ一定となっている。変温動物の爬虫類<sup>はちゅうるい</sup>であるはずのオサガメは潜水に伴う水温の急激な変化にどのように対処しているのであろうか。オサガメは爬虫類でありながら、熱を体内で作り出す内温動物の一種であることが1970年代以降の研究で判明してきた。哺乳類<sup>ほにゅうるい</sup>や鳥類では、食べ物から得たエネルギーの大半を熱に換えているが、オサガメでは筋肉を絶えず動かし、筋肉の中に発生した熱を体内に分散することで、周囲の海水温より最大で摂氏20度も高くしている。オサガメは昼夜を問わずほとんど休むことなく泳ぎつづけることが知られているが、これは熱を作って体温を温かく保ち、冷たい深海に潜るための準備でもあるわけだ。

(平山廉『カメのきた道』日本放送出版協会)

問1 オサガメの深海での体温について述べたものとして、合っているものはどれですか。

15

1. 常に摂氏4度程度に保っている。
2. 周囲の海水温より低く保っている。
3. 周囲の海水温より高く保っている。
4. 周囲の海水温と同じくらいに保っている。

問2 オサガメが深海で体温を保つしくみとして、合っているものはどれですか。

16

1. えさを食べ続けてエネルギーを熱に換える。
2. 常に筋肉を動かして熱を発生させる。
3. 余計なエネルギーを使わないようにする。
4. 海水温が比較的一定の水深付近で泳ぐ。

XIV 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

<sup>だれ</sup>誰が操作しても同じ結果が出る、誰がどんな子どもに指導しても一定の効果が上がるような教育方法は、求めても得られるものでないということが、最近の教育研究で、徐々に常識になってきています。… (略) …

有名な実践保育者が公開保育を行い、それを現場の教師（保育者）や保育研究者が観察し、実践の\*奥義のようなものを探ろうとする研究授業があります。しかし、いくらすばらしい授業を目の当たりにしても、それをそのまま模倣することはできません。筆者が実習していた養護学校でも、いつも朗らかで、子どもといつも笑い転げながら遊んでいた先生がいらして、筆者はいつもあこがれて見ていました。でもそれを、同じようにやってみせることはできませんでした。わざと朗らかにしてみても子どもには伝わらず、その先生のようなタイミングで子どもたちの輪に加わってみようとする、動きがぎこちなくなってしまうのです。

教育の方法を模索しているときに、ある理論を学び具体的な事例に当てはめるという、「理論→実践」型ではうまくいきません。また、人のやり方をそのまま模倣するという「実践→実践」型だけでも行き詰まりを感じるものです。教師（保育者）が教育の方法を探るプロセスは、まず最初に、子どもとのいろいろな実際のやりとり、うまくいかない自分自身の体験があって、そこに理論や他の人の実践例を重ね、どうしたら理想に近い教育を実現できるだろうかとの自問や反省を行い、また試行錯誤していくという「実践→省察→実践」型が、有効です。

(浜口順子「第4章 幼児教育の方法」小田豊他『新しい時代の幼児教育』有斐閣)

\*奥義：学問や武芸における、もっとも奥深い事柄

問1 下線部「同じようにやってみせることはできませんでした」という経験から筆者が得た考えとして、最も適当なものはどれですか。 17

1. どんな教育方法に効果があるか、研究で解明することは難しい。
2. 他人の教育方法をまねするためには、教育経験を積む必要がある。
3. 効果的な教育方法を実践するには、理論を十分に習得することが大切だ。
4. 他人の優れた教育方法をそのまま実践しても、うまくいくとは限らない。

問2 教育方法に対する筆者の考えとして、最も適当なものはどれですか。 18

1. 自分の体験に他者の実践や理論を合わせながら、模索していくのがよい。
2. 自らの教育実践から導き出した方法を他者と共有するのがよい。
3. 他者の理論や実践例の中に、自分の理想とする方法を見出すのがよい。
4. 優れた教育者が提唱した理論を忠実に実践するのがよい。

XV 次の文章は、北海道に生息するエゾヤチネズミという動物に関する説明です。読んで、後の問いに答えなさい。

エゾヤチネズミは普通、春を迎えると繁殖を始める。原因はわからないのだが、真夏に繁殖活動は一度低下し、秋にまた活発になる。だから繁殖期は春と秋に二回あるとってよい。しかし、これには地域差が大きく、\*道東や道北の寒冷地では春から夏まで繁殖が続き秋繁殖は早めに終わる。また、本来は春と秋に繁殖のピークがある地域でも、春繁殖が夏まで続き、個体群が高密度になった年には秋に繁殖しないことがある。繁殖期が終わるとすぐに冬が来る。北海道の冬は厳しく、最高気温が氷点を超えない真冬日が何日も続く地域もある。積雪が一メートルを超える地域も少なくない。多くの植物は枯れ、食べるものはササの葉や貯えた木の実などに制限されてしまうが、エゾヤチネズミは冬眠しない。雪の下で活発に動き回り、餌が豊富なときには繁殖することもある。

… (略) …

エゾヤチネズミは植物などに覆われた地表やトンネルの中を這い回っている。ジャンプや木登りは得意ではない。動きがにぶいためによく天敵に狙われる。キツネ、イタチ、フクロウなどエゾヤチを主食にしている捕食者は多い。シマヘビ、アオダイショウなどに食われることも珍しくない。死亡の要因は天敵の他に病気、飢え、寒さなどがあり、野外での寿命は短く、一年以上生きる個体は非常に少ない。

(齊藤隆『森のねずみの生態学』京都大学学術出版会)

\*道東、道北：北海道の東地域、北地域

問1 エゾヤチネズミの繁殖に関する記述で、この文章の内容と合っているものはどれですか。

19

1. 寒冷地では、冬に冬眠するので秋の繁殖は早く終わる。
2. 一部の地域では、個体数が増え過ぎた年に秋の繁殖を行わないことがある。
3. 一部の地域では、気候・天候によって繁殖活動を行わないことがある。
4. どの地域でも、繁殖活動は春と秋の二回である。

問2 エゾヤチネズミがよくキツネなどに捕食される理由は何ですか。

20

1. 栄養価が高いから
2. 数が多くいるから
3. 動作が遅いから
4. 姿が目立つから



XVI 次の文章は、日本の林業に関して述べています。読んで、後の問いに答えなさい。

(1) 街に住む人は、無意識に山村を「別世界」と思い込んでいるところがある。たしかに森林や林業は、街から離れたところにある存在だ。具体的にそこで何が行われているか見えないし、知る機会が極端に少ない。だから林業のことを語っても、山村で完結しているかのように思いがちだった。

しかし、林業は産業だ。経済活動である。そして人と物は山村と都会を行き来する。

すべての産業は、消費する地域と人があることを前提に物やサービスが生産されている。消費の多くは街にある。人・物の移動と経済に分断する壁は作れない。

林業を営む山村も街とつながり、木材も街で多く消費される。山村で暮らす人々のためだけに必要な木材なら、天然林から採取し、自分たちで加工するだけでも十分に合うだろう。だが植林から伐採、搬出、加工、販売までの長期・広範囲にわたるシステムティックな育成林業は、街に木材の需要があるから生まれたのだ。いわば、(2) 街が林業を作ったのである。森が街に行くことが、林業だったのだ。

そして街は、木材を単にマテリアルとして消費するだけではない。街で建造物や家具、道具、あるいは身の回りのグッズとして使われた木材も、都市景観やインテリアとして常に人の目にとまっている。材料が木材と意識しない紙などの木質製品も街にあふれている。… (略) …

森林や林業の恩恵をより多く受けているのは街の人である。この点に目をつぶっては、森林、そして林業を語れないのではないか。

(田中淳夫『森林異変』平凡社)

問1 下線部(1)「街に住む人」の山村に対する一般的な考え方として、最も適切なものはどれですか。

21

1. 山村では経済活動がまったく行われていない。
2. 街からすぐ近くにあるので、よく知っている。
3. 林業を通じて自分と強く結びついている。
4. 自分の生活とはあまり関係のない場所である。

問2 下線部(2)「街が林業を作った」とはどういうことですか。

22

1. 都市が木材を必要とするから林業がおこった。
2. 山村が林業を営むことによって都市化した。
3. 山村の木材は、実は都市の人々が植林したものである。
4. 街に植林することで都市部に森林を増やしてきた。

XVII 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

何年か前に、NHKの『課外授業・ようこそ先輩』という番組に出ました。わたしが小学校二年生から四年生にかけて在籍した<sup>みたか</sup>三鷹市立第四小学校の、六年生のクラスで授業をしたのです。そこで、忘れられない体験をしました。

幸い夜にかかる授業を許可していただき、子どもたちは数人ずつのグループに分かれて、それぞれはりきって小望遠鏡を組み立てました。それから屋上に上がって月を観測し、スケッチをしました。みな熱心に観測しているうち、女の子が三～四人でわたしのところにやってきて「あの一、さっき先生が言ったこと、<sup>(1)</sup>間違ってるんじゃないですか？」。望遠鏡を組み立てる前に、月の円い\*クレーターの火山成因説と<sup>いんせき</sup>隕石衝突説の対立の話をしてありました。\*アポロの月面探査で決着が付き、いまは隕石の衝突でクレーターができたという結論が出ているということも。生徒たちは自分が描いたスケッチをわたしに見せながら、「月の上でクレーターがある場所は、ほら、こんなに偏っています。もし隕石でできたのなら、どこだって同じに落ちて、どこでも穴があいているはずでしょ？ だからクレーターは、火山でできたんじゃないのですか？」。わたしは<sup>(2)</sup>うれしくて、本当にぞくぞくしました。自分でスケッチをしたことで、子どもたちはこんな<sup>すば</sup>素晴らしい発見をするのだと。

実際には、隕石衝突でまんべんなくクレーターができたあと、膨大な溶岩が流れ出てクレーターを部分的に埋めてしまいました。だから、クレーターは月面上で偏って分布して見えます。でも、子どもたちのこの発見はすばらしい。そしてそれは、自分の手でクレーターを一つひとつ描きこむ、( A )をしたからこそ生まれたものです。ただ望遠鏡で眺めただけでは、この発見はなかったでしょう。

(海部宣男「自然の広がり伝える」滝川洋二編『理科読をはじめよう』岩波書店)

\*クレーター：惑星や衛星の表面にある円形にくぼんだ地形

\*\*アポロ：アメリカの有人月探査機

問1 下線部(1)「間違ってるんじゃないですか？」と小学生が言ったのはなぜですか。

23

1. 望遠鏡で観測する前と後で、筆者の話が違っているから
2. 観測したクレーターの様子が、隕石の衝突でできたとは思えないから
3. 観測したクレーターの様子が、火山の噴火でできたとは思えないから
4. 望遠鏡では、月をきちんと観測できるとは思えないから

問2 下線部(2)「うれしくて、本当にぞくぞくしました」とありますが、それはなぜですか。

24

1. 子どもたちが観測する前に間違いを発見したから
2. 子どもたちのスケッチがあまりに素晴らしかったから
3. 子どもたちが観測をもとに自ら考えたから
4. 子どもたちが筆者の間違った部分を指摘したから

問3 ( A )に入るものとして最も適切なものはどれですか。

25

1. 能動的な観測
2. 指示通りの作業
3. 十分な予習
4. 芸術的なスケッチ

——— このページには問題はありません。 ———

# 聴読解問題

## 説明

聴読解問題は、問題冊子に書かれていることを見ながら、音声を聴いて答える問題です。

問題は一度しか聴けません。

それぞれの問題の最初に、「ポーン」という音が流れます。これは、「これから問題が始まります」という合図です。

問題の音声の後、「ポーン」という、最初の音より少し低い音が流れます。これは、「問題はこれで終わりです。解答を始めてください」という合図です。

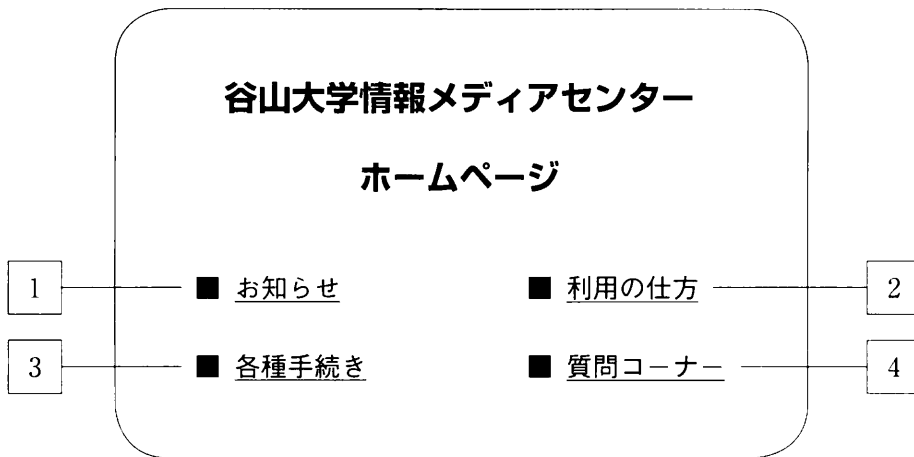
選択肢 1, 2, 3, 4 の中から答えを一つだけ選び、聴読解の解答欄にマークしてください。

1 番の前に、一度、練習をします。

## 聴読解問題

## 練習

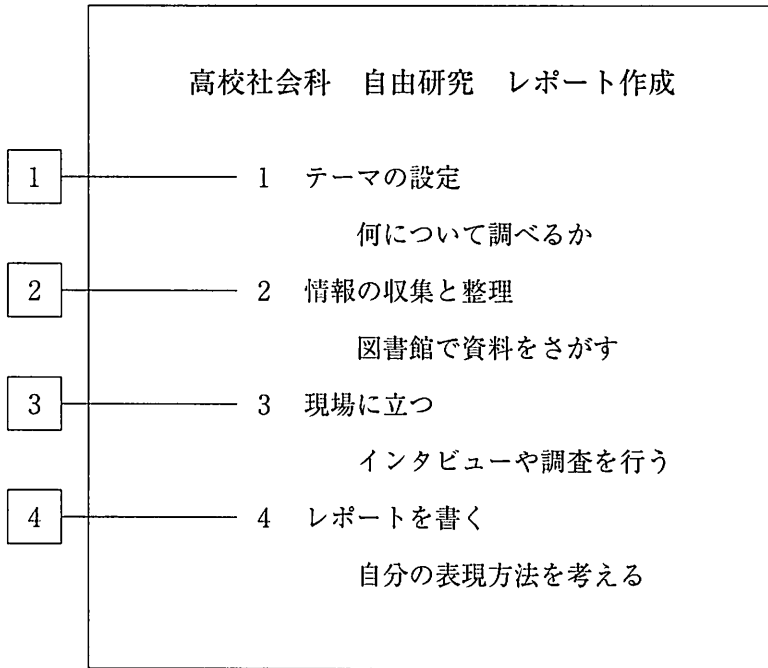
学生がコンピュータの画面を見ながら先生の説明を聞いています。学生は今、画面のどの項目を選べばいいですか。



1 番

先生と学生が教育学の授業で、高校生に対する自由研究の指導の仕方について話しています。この先生は、どの部分の指導が一番重要だと言っていますか。

1





## 2 番

先生が心理学の授業で、人の話の聴き方について話しています。この先生が挙げた話の聴き方の例は、この表の中のどの要素の使い方が不適切であるといえますか。 2

## 人の話を聴くときの非言語的要素の使用

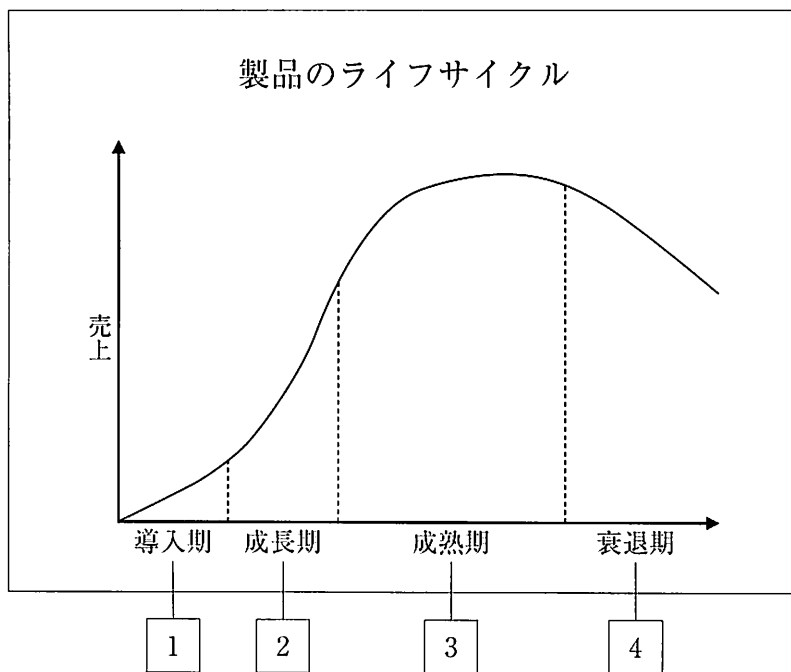
非言語的要素	適切な使用	不適切な使用
距離	腕を広げたくらいの距離。 (50cm ~ 150cmくらい)	遠すぎる / 近すぎる。
からだの向き	話し手のほうに向いている。	話し手のほうに向いていない。
姿勢	リラックスした姿勢。 軽い前傾。	緊張した姿勢 / 弛緩 <sup>しかん</sup> しきった姿勢。後傾。
1 視線	話し手の目を適度に見る。	話し手の目を見ない / 過度に見る。
2 表情	話の内容に合った表情。 一般的にはほほえみ。	無表情 / 過度に笑う。
3 うなずき	適度にうなずく。	うなずかない / 過度にうなずく。
4 手の動き	ほとんど動かさない。	腕を組む、顔や頭をかく、 髪の毛をもてあそぶ、 小物をいじる など。

(相川充『新版 人づきあいの技術』サイエンス社 を参考に作成)

3番

先生が、経営学の授業で話しています。この先生が最後にする質問の答えは、図のどれですか。

3



## 4 番

男子学生が、自分のWebページについて女子学生の意見を聞いています。この男子学生は、Webページをどのように変えることにしましたか。

4

××大学文学部心理学科卒業論文

## 声質の印象評価を決定する要因

### —自己紹介スピーチの分析から—

山田 純一

#### ○論文目次

1. 研究の目的
2. 研究の位置づけ
3. 研究のきっかけ
4. 実験方法
5. 実験協力者
6. 実験結果
7. 考察
8. 結論
9. 参考文献

1. 論本文本文も載せる。
2. 目次の項目を左揃えにする。
3. 項目の順番を入れ替える。
4. 目次の項目を1つ削る。



## 6 番

先生が、企業の研究開発体制や、研究者・技術者の処遇に関するアンケート調査の結果について説明しています。それぞれの質問項目すべてについて全体的な傾向と一致する会社はどれですか。

6

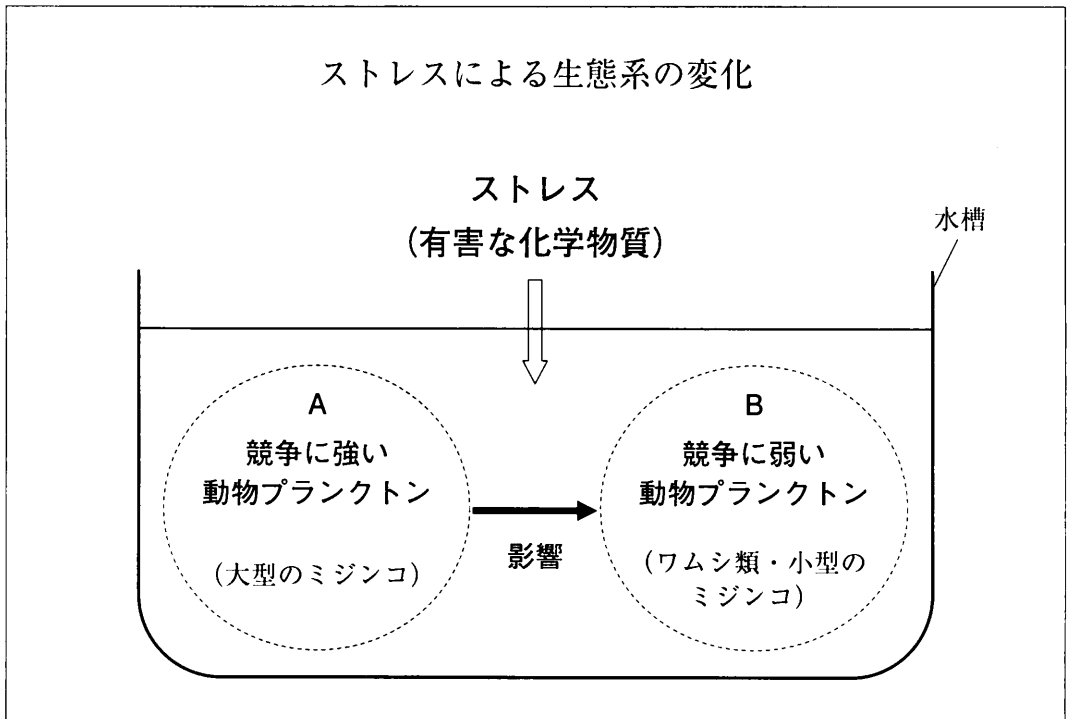
業種	業種名	1. 特別な処遇制度の有無	2. 表彰制度の有無	3. 特許に対する報償金の上限
食品	A 食品	特別昇給制度あり	通常の表彰制度の中で扱う	上限なし
化学	B 化学	特に昇給制度はない	発明賞、特別賞を特別に措置	前例に従う (過去の最高額は800万円)
機械	C 製作所	特別昇給制度あり	通常の表彰制度の中で扱う	最高500万円
電気	D 電気	特に昇給制度はない	通常の表彰制度の中で扱う	上限なし

1. A 食品
2. B 化学
3. C 製作所
4. D 電気

7 番

先生が、ストレスと生態系の関係について、図を見せながら話しています。この先生の説明によれば、ストレスを加えると、動物プランクトンAとBはどのように変化しますか。

7



1. AもBも増える。
2. Aは増え、Bは減る。
3. Aは減り、Bは増える。
4. AもBも減る。

## 8 番

女子学生と男子学生が昨日降った雨について話しています。この二人の話から、昨日の雨の量は、「雨の強さと降り方」を示す表の中のどの雨量だったと考えられますか。 8

雨の強さと降り方

	1時間雨量 (ミリ)	人への影響	屋外の様子	車に乗っていて
1	10以上～ 20未満	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	地面一面に水たまりができる	
2	20以上～ 30未満			ワイパーを速くしても見づらい
3	30以上～ 50未満	傘をさしていてもぬれる	道路が川のようになる	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる（ハイドロプレーニング現象）
4	50以上	傘は全く役に立たなくなる	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	車の運転は危険

（「雨の強さと降り方」気象庁webページ を参考に作成）

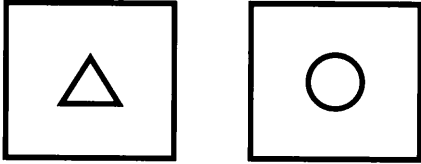
9 番

先生が授業で、資料を見せながら話しています。この先生は、生後1か月の赤ちゃんのものの見方について何と述べていますか。

9

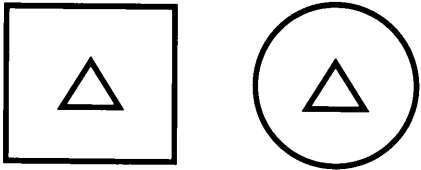
実験：赤ちゃんに図形の違いがわかるか？

A 外側の形は同じで、中の形は異なる。



---

B 外側の形は異なり、中の形は同じ。



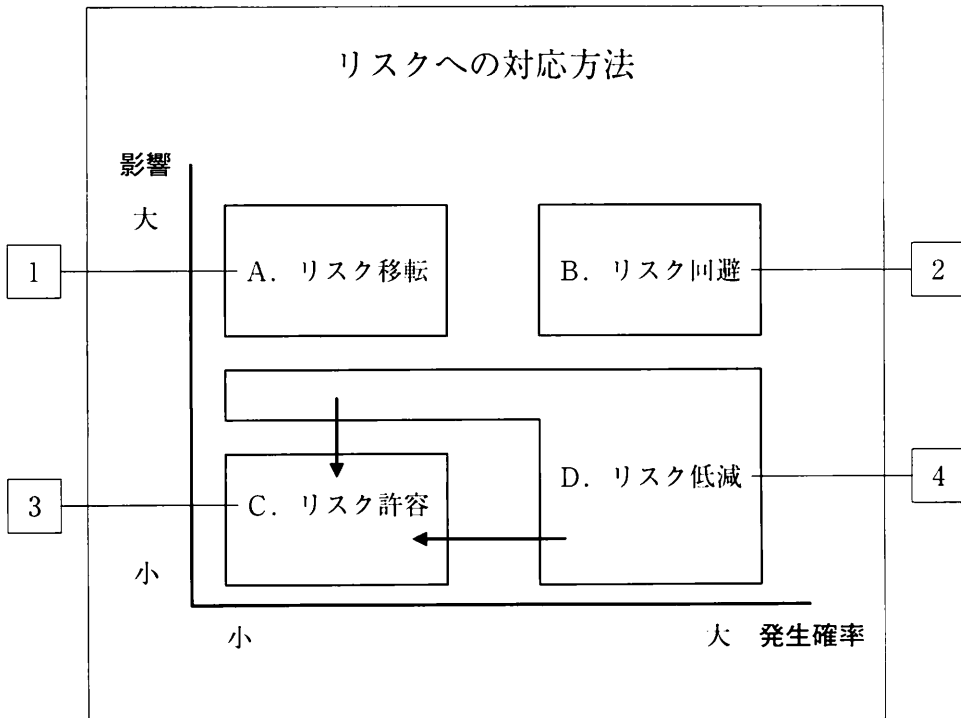
(山口真美『赤ちゃんは顔をよむ』紀伊國屋書店 を参考に作成)

1. AもBも区別できる。
2. AもBも区別できない。
3. Aは区別できるが、Bはできない。
4. Aは区別できないが、Bはできる。



10番

先生が授業で、リスクへの対応方法について説明しています。この先生が最後に挙げる例は、図のどの方法にあてはまりますか。 10

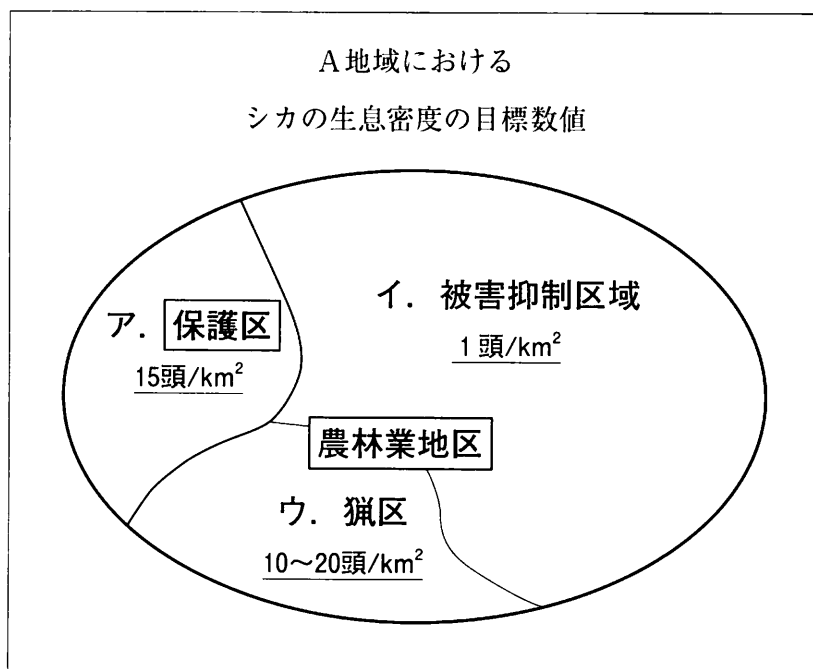


(佐々木良一『ITリスクの考え方』岩波書店 を参考に作成)

11番

先生が、野生動物の適正な生息数について話しています。この先生の話によると、一定の面積あたりの生息数の目標を決めるにあたって最も難しいのは、図のどの区域ですか。

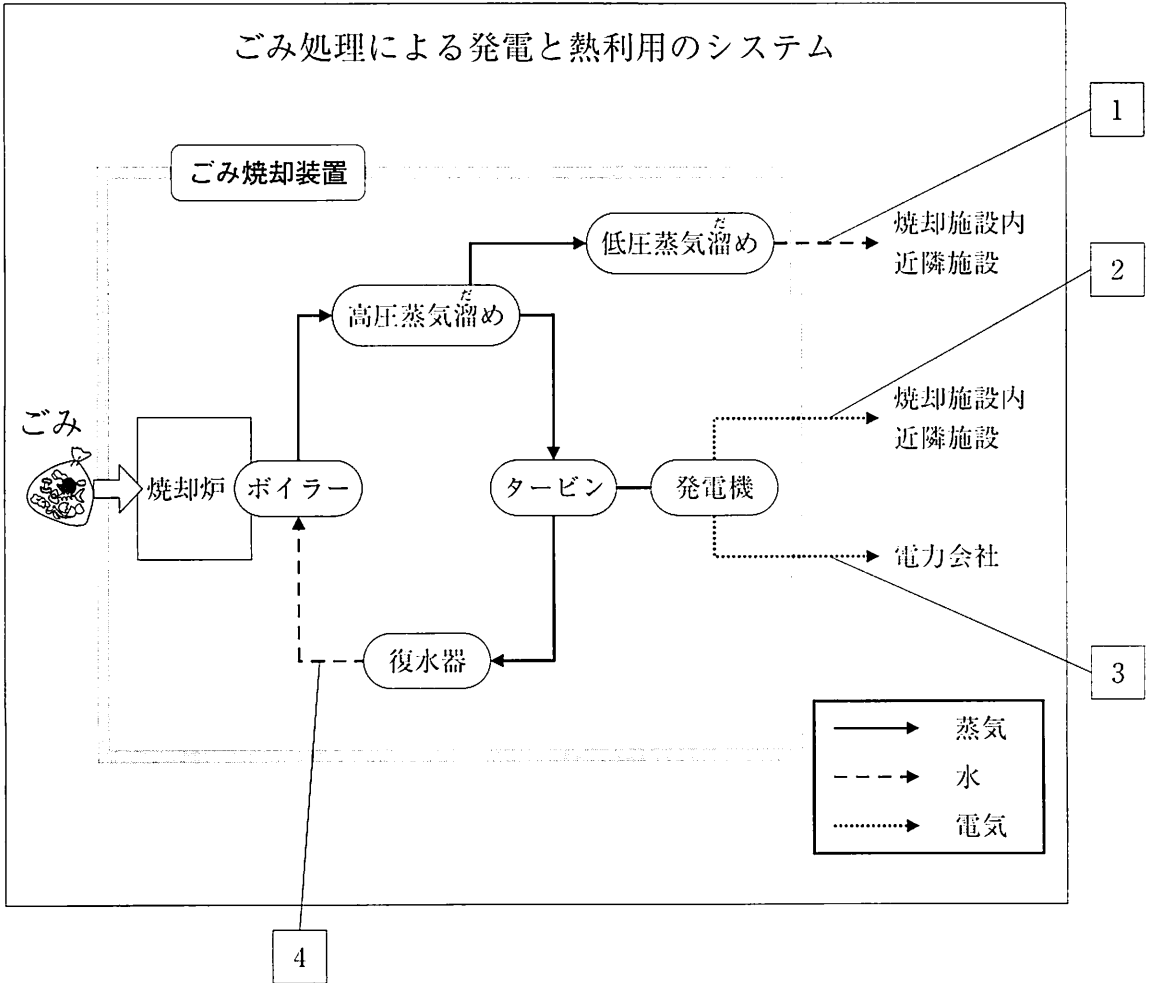
11



1. ア
2. イ
3. ウ
4. イ, ウ

12番

先生が講義で、ごみ処理の過程で出る水やエネルギーの利用方法について話しています。水やエネルギーが十分に利用できない場合もあるのは、図のどの部分ですか。 12



(森棟隆昭「1章 ごみのエネルギー利用の方法」鍋島淑郎他『ごみから電気をつくる』オーム社を参考に作成)

——— このページには問題はありません。 ———

# 聴解問題

## 説明

聴解問題は、音声を聴いて答える問題です。問題も選択肢もすべて音声で示されます。問題冊子には、何も書かれていません。

問題は一度しか聴けません。

このページのあとに、メモ用のページが3ページあります。音声を聴きながらメモをとるのに使ってもいいです。

聴解の解答欄には、『正しい』という欄と『正しくない』という欄があります。選択肢1, 2, 3, 4の一つ一つを聴くごとに、正しいか正しくないか、マークしてください。正しい答えは一つです。

一度、練習をします。

この問題冊子を持ち帰ることはできません。

— ヌ 毛 —

— メ モ —

— ヌ 毛 —



平成24年度日本留学試験(第1回)試験問題 正解表

〈日本語〉

記述 問題解答例を343ページに掲載

読解			
問	解答欄	正解	
I	1	3	
II	2	4	
III	3	3	
IV	4	4	
V	5	1	
VI	6	2	
VII	7	4	
VIII	8	3	
IX	9	2	
X	10	2	
XI	問1	11	2
	問2	12	3
XII	問1	13	4
	問2	14	2
XIII	問1	15	3
	問2	16	2
XIV	問1	17	4
	問2	18	1
XV	問1	19	2
	問2	20	3
XVI	問1	21	4
	問2	22	1
XVII	問1	23	2
	問2	24	3
	問3	25	1

聴読解			聴解		
問	解答欄	正解	問	解答欄	正解
1番	1	1	13番	13	4
2番	2	4	14番	14	4
3番	3	2	15番	15	1
4番	4	2	16番	16	3
5番	5	1	17番	17	4
6番	6	1	18番	18	4
7番	7	3	19番	19	3
8番	8	2	20番	20	1
9番	9	4	21番	21	3
10番	10	1	22番	22	3
11番	11	2	23番	23	3
12番	12	1	24番	24	2
			25番	25	2
			26番	26	4
			27番	27	3

## 「記述」問題解答例

①

近年、日本では、伝統文化や習慣が変化しているようだ。たとえば、以前は、お正月には、おせち料理を作って、家族全員が家に集まってお祝いするのが普通だったという。しかし、今は、おせち料理は売っているものを買う人が多いし、家族がバラバラに過ごすことも多いようだ。伝統行事は、「当然、すべきもの」から「してもしなくてもよいもの」へと変化してきたと言える。

その背景には、家族の形が変わったことが考えられる。核家族化が進み、祖父母と一緒に住まなくなったために、昔からの伝統をお年寄りが次の世代に伝える機会が減った。さらに、現代は、生活の速度が速くなり、仕事においても厳しい競争があるため、若い世代の人に習慣や伝統行事を続けていく余裕がなくなっているのだろうと思う。

時代とともに、昔からの習慣や伝統行事が変わっていくのは、仕方がないことだ。しかし、世代と世代の間のつながりが弱くなり、これまで年月を経て続けてきたことが消えることは、文化的な損失であると思う。(422文字)

②

最近、中国でも、大学を卒業した後で就職できない若者が増えている。皆、家族の期待と支援を受けて、一生懸命勉強して大学に進学した。卒業すれば、就職できると思っていた。しかし、大学を出たからといってよい仕事につけるとは限らないのが現状である。

これは若者にとって、予想外のことで、精神的に傷つく人も多い。冷静に考えれば、以前に比べ大卒者が増加したため、大卒者に見合う仕事の数が足りないこと、競争の激しい現在、企業は経験のない人よりも経験者がほしいことなど、その原因が見えてくる。

傷ついたと嘆いていても、将来は変わらないと私は思う。個人でもできることがある。例えば、外国語を学習して国外の企業も視野にいれて就職活動をしたり、自分の行きたい企業を目標に、在学中にインターンやアルバイトで計画的に経験を積んでおいてはどうだろう。また、政府も若者の就職がうまくいくように、新卒者を採用した企業にメリットを与えるなどの支援をするべきだ。

大卒者が増えるなど社会の構造が変わる時には、従来の考え方は通用しなくなる。社会の動きに合わせて、私たちは考え方を変えていく必要がある。(476文字)

## 「記述」採点基準

「記述」の採点にあたっては、以下の基準に基づき採点し、得点を表示します。

得点	基準
50点	(レベルS) 課題に沿って、書き手の主張が、説得力のある根拠とともに明確に述べられている。かつ、効果的な構成と洗練された表現が認められる。
45点	(レベルA) 課題に沿って、書き手の主張が、妥当な根拠とともに明確に述べられている。かつ、効果的な構成と適切な表現が認められる。
40点	
35点	(レベルB) 課題にはほぼ沿って、書き手の主張が、おおむね妥当な根拠とともに述べられている。かつ、妥当な構成を持ち、表現に情報伝達上の支障が認められない。
30点	
25点	(レベルC) 課題を無視せず、書き手の主張が、根拠とともに述べられている。しかし、その根拠の妥当性、構成、表現などに不適切な点が認められる。
20点	
10点	(レベルD) 書き手の主張や構成が認められない。あるいは、主張や構成が認められても、課題との関連性が薄い。また、表現にかなり不適切な点が認められる。
0点	(NA)* 採点がなされるための条件を満たさない。

レベルA、B、Cについては、同一水準内で上位の者と下位の者を区別して得点を表示する。

\*0点（NA）に該当する答案は以下のとおりである。

- 白紙のもの。
- 全文が日本語以外の言語で書かれているもの。
- 全文が課題文の引き写しで終わっているもの。
- 与えられた両方の課題（①と②）について書かれているもの。
- 与えられた両方の課題（①と②）の、どちらについて書かれているか判断できないもの。
- 与えられた課題とまったく無関係なことが書かれているもの（問題冊子の表紙等、課題と関係のない文章を引き写している、あるいは自己紹介で終わっている等）。
- その他、委員会の議を経て、0点とするに至る十分な理由があると判断されたもの。